

2025 年 6 月 26 日

学校法人三幸学園
大宮スイーツ&カフェ専門学校
校長 岩崎 和友 殿

学校関係者評価委員会
委員長 古泉 元気

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 長山 慎太郎 (有限会社ヒューマンカウンシル 代表取締役)
- ② 古泉 元気 (2018 年度卒業生)
- ③ 栗原 由香理 (飛鳥未来きずな高等学校 大宮キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 18 日 (水) 大宮スイーツ&カフェ専門学校
(会場 大宮スイーツ&カフェ専門学校専門学校 1 F カフェ教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 大宮スイーツ&カフェ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 寺澤 正典

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 古泉 元気

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する」を人材育成像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

1) 学園のミッション・ビジョンの実現を目指す。また目指す人材育成像の見える化を強化し、教職員・生徒保護者が同じ方向を向き成長できるようにする。

⇒成長ストーリーの作成とポスター掲示を実施

ホームルームにて各時期に現時点と到達点の確認を実施

2) SDGsへの積極的な取り組み。

⇒ゴミの分別強化

⇒材料発注量を見直し、ロス食材の削減

3) 卒業後の環境変化に適応できるよう、ホームルームを活用したキャリア育成や社会人基礎力の向上を図る。

⇒ホームルームにてキャリア育成の実施

9月30日就職活動行事を実施

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・生徒への浸透は進んでいるが、保護者周知も更に強化していく必要がある。

② 今後の改善方策

・2025年度は新入生保護者会を年度初めに対面で実施し、次年度も実施する。

・ホームルームでカリキュラムマップを使用し、定期的な確認を継続した。

・スクレ(保護者とのコミュニケーションツール)の説明を新入生保護者会で行った。より一層の周知を行うために各クラスホームルームで再度連絡文を配布して保護者へ連絡した。

③ 特記事項

・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・長山委員：今の学生はホスピタリティが足りないように感じている。相手の気持ちを考える力や心からのおもてなしができない生徒が多いようだ。

・古泉委員：現在、飲食業界の現場ではサービス力の強化に取り組んでいる。料理長が自らサービスをし、調理をするだけではない部分を若手社員に見せている。おせっかいと感じるほどのサービスを提供することも求められる。現場に出てからでも技術は身につく為、学校ではどんな人ともコミュニケーションが取れるようになることが重要である。学生生活においてコミュニケーション力を身につけることが第一である。

・栗原(由)委員：現在、通信制に通う高校生は職業選択をする上で見た目を重視している。そこに至るまでの経緯が見えていない、仕事として想像ができないように感じる。姉妹校であるスイーツ校の授業が見学できる環境は高校生にとっては職業(仕事)イメージができる場所である。働くことはアルバイトの延長と考えている高校生が多い為、社会に出る前に厳しい部分・辛い部分を授業の中でリアルに伝えるべきだ。

(2) 学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・システムツールの使い分けを明確にしていく必要がある。
- ・授業で使用する材料発注について、決済権限を明確にしていく。

② 今後の改善方策

- ・Google classroom をクラス連絡、Sanko Gate を全体共有ツールとして使用する。
- ・リーダーが定期的な材料発注状況を確認管理する。

③ 特記事項

- ・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・古泉委員：飲食業界でも業務の DX 化が進んでおり、業務効率化が進んでいる。学校でも教員の業務環境を整え、効率よくかつ質の良い教育を展開すべきだ。
- ・寺澤副校長：業務効率化には学園として取り組んでいる。毎週役職者会議を開催、情報の交換、運営の意思決定を行っている。
- ・栗原(陽)さん：週 1 回教務会議を開催、学生の状況、行事、就職状況などを共有し、円滑な運営を行っている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・インターンシップへ行くことに対して前向きになっていない生徒が増えている。
- ・多様化する生徒の人材育成方法が確立されていない。

② 今後の改善方策

- ・インターンシップの動機付け方法を再検討し、任意制とする。
- ・多様化する生徒の理解を高める研修を実施する。あわせて、人員配置の見直しを行う。

③ 特記事項

- ・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・長山委員:実習が任意参加になったが、実習に行くことで店舗の大きさやどんな雰囲気かの所が自分に合っているのかをぜひ知るべきだ。できれば、自分がどんな所で働きたいのか働く前に現場を見るべきだ。

・古泉委員：飲食業界で働くうえで福利厚生等が充実していることも重要と考える。企業サポート制度を利用した国内・海外旅行では他の地域の食材や調理法等を学ぶことができる。また従業員の家族が来店することもあり、来店しやすい雰囲気作りを行い、家族にも働く環境を知ってもらうことで安心感が伝えられる。

・栗原(由)委員：学生の多様性に関連する課題としては、コロナ禍以降、人との距離感がうまく取れない学生が増えている。また、専門学校は毎日通うことになる為ハードルがかなりあがる。高校生の進路選び方として保護者が進学先を決めてから説明会や見学に来るパターンも多くある。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・専門学校へ通う目的意識があいまいになっている。
- ・勉学に対する意識が自分軸になり、習得して欲しい学びに繋がりにくい。

② 今後の改善方策

- ・成長ストーリーの改変（学事のタイミングにあわせてよりわかりやすい形にする）
- ・成長ストーリーを活かし、卒業後のありたい姿になるためには今何をすべきかを HR にて確認をする。

③ 特記事項

- ・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・長山委員：色彩検定・ラッピング検定は絶対に取得するべきだ。また、採用試験時に学生時代に取り組んだことをまとめた学校経歴書（学内店舗実習でホールリーダーを務めた・メニュー開発に関わった・皆勤・特待生等）があると面接でアピールすることができて良い。
- ・古泉委員：現場ではソムリエ資格試験や調理師免許等手当、資格給がある。現場に出てからも勉強をする習慣を身につけるべきだ。
- ・栗原（陽）さん：資格・検定は、集中講座や補講を取り入れ、合格率の向上を図っている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・専用アプリ/教室掲示/就職 INFO 様との連携などによる就職情報共有が課題。
- ・施設実習は選択単位で、8 月 22 日～9 月 2 日に 47 名が施設実習に参加。受け入れ先が生徒の希望に添えるかが課題。

② 今後の改善方策

- ・同窓会(HCD)を 9 月 4 日に開催。卒業生在籍企業への施設実習生徒の受け入れをお願いする。
- ・9 月 30 日に就職キックオフミーティングを実施し、専用アプリの登録をさせた上で求人票の見方、履歴書の書き方などを指導する。
- ・各教室の白板横に求人票を掲示し、求人情報のタイムリーな提供を進めている。
- ・個別企業説明会を積極的に開催する。

③ 特記事項

- ・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・長山委員:業界全体としてはあるが製菓・カフェの求人の増減がはっきり分かれてきている。辞めない人が増えている為、求人がない状況が見受けられる。数名しか採用しない企業もありレストラン関係も同様である。人気のない業界(居酒屋等)は人手不足が続いている。学生は売り手市場ではないことを把握する必要がある。
- ・栗原(由)委員:通信制高校の 2 割程度が就職へ進む。高校にはハローワークを通しての求人票が来るようになってきている。
- ・小松さん:同窓会を 9 月 4 日に行う。50 名の動員を目指している。教員が菓子、料理を提供して【おもてなし】をテーマに行う予定、今後も引き続き卒業生への情報発信を行い、きずなを深める。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・海外研修の内容を生徒へ十分に発信できておらず、希望者が少なかった。
- ・インターンシップ実習の参加者が低減している。

②今後の改善方策

- ・海外研修の内容をタイムリーに会議で担任教員へと共有するとともに、非常勤講師の先生方にも共有し、海外研修への参加を促していただく。
- ・インターンシップの目的やなぜ実施しているか等、学生が理解できるよう HR で複数回説明を実施し不安を解消する。

③ 特記事項

- ・なし

④学校関係者評価委員会コメント

- ・長山委員:インターンシップの実施期間は2週間が妥当である。
- ・古泉委員:短時間の4時間だけでも良いと思う。内容を重視し、仕込みのやり方や実際に接客をして働いてみてほしい。インターンシップを受け入れる現場の負担は特にはない。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・入学後のリアルショックを生まない教務と広報の連動。

② 今後の改善方策

・入学前のプレスクールの実施。
・授業担当者へ広報（どのように募集をかけているのか）を共有する。

③ 特記事項

・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・長山委員：学生募集活動において、三幸学園の募集状況の安定を感じる。生徒と教員の距離の近さや寄り添う姿勢が好まれている。また、今の学生に合った授業展開をしている。

飲食業界の現場では AI を導入し、ポスター作成やメニュー開発・単価計算等にも使用している。今後 AI 導入の仕組み作りの知識や理解も必要になるため、授業にも取り入れてほしい。

・栗原(由)委員：高校の学費が安い為、専門学校は高いと感じてしまう保護者は多くいる。奨学金希望者は多い。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・更なる法令順守の推進。

② 今後の改善方策

・改善点を教員会議にて共有し、研修を行い、改善を図る。

・会議や掲示板等を活用し、全ての教職員が法令順守できるよう継続的に働きかける。

③ 特記事項

・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・長山委員:コンプライアンスが取りざたされることが多くなっているため、教員に周知を徹するべきだ。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・社会貢献、地域貢献への取り組みについて、生徒への周知が不十分。
- ・既存の社会貢献活動の見直しをする。

②今後の改善方策

- ・年間行事として取り組み、生徒に早い段階で周知し、取り組みを深める。（マルイ様他）
- ・社会貢献として日本赤十字社埼玉県赤十字献血センター様、マクドナルドハウス様との取り組み。

③ 特記事項

- ・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・栗原(由)委員:社会貢献として素晴らしい活動が見受けられる。これからも続けるべきだ。
- ・栗原(陽)さん:社会貢献活動は、学生の学園生活での貴重な体験になるので継続して行う。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・留学生の数は少ないが、今後増えることへの対応。
- ・姉妹校の大宮医療秘書専門学校 国際ビジネス科と共通行事を通して交流することで、文化の違いを理解する機会にしたいが、どのように交流するかが課題。

② 今後の改善方策

- ・姉妹校の留学生と三幸フェスティバルの運営、競技参加を通じて交流、文化の違いなどをお互い理解し、お互いの国際感覚を高める。
- ・なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・古泉委員:オーバーツーリズムが問題視されているが、飲食店としてはありがたい。今後も外国のお客様が増えると思定されるので、留学生などの就労が期待される。学校でも日本社会を理解させるよう努めるべきだ。
- ・寺澤副校長:学園として、留学生対策は優先順位を上げているが、教務対応などがまだ整っていないのが現状。これから整備を重ね対応をする。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

大宮スイーツ&カフェ専門学校は、教育理念に基づいた人材育成を着実に進めており、業界ニーズや社会的要請に応える体制が整い、特に運営面や社会貢献、学生募集において高評価を得ている一方で、インターンシップや資格取得、学生の多様性への対応など、教育活動や学修成果に関してはさらなる工夫が必要である。

今後は以下の点を目標に、より質の高い教育環境の構築を目指す。

- ①保護者・生徒への理念の浸透。
- ②インターンシップや海外研修の動機付け。
- ③教員の資質向上と業務効率化。
- ④留学生対応の体制整備。
- ⑤学生の目的意識の醸成。